

学校教育目標 「主体的に生きる子」

令和6年度具体目標

「自分でめあてを立て、計画的に取り組み、修正しながら根気強く取り組める子」

- | | |
|----------|---------------------|
| 〈めざす児童像〉 | ●自ら律することのできる子 |
| | ●判断力のある子 |
| | ●人との関わりから学ぶ子 |
| 〈めざす教師像〉 | ●子どもの良さを見つけ自信を育てる教師 |
| 〈めざす学校像〉 | ●全ての児童の居場所となれる学校 |

〈学校経営の重点〉

- ① 児童自ら考えさせる教育
 - 生徒指導の4機能（自己決定・自己存在感・共感的人間関係・安全安心な風土）を活かした学年経営を進める。
 - 2大行事（運動会、長小まつり）をはじめ、あらゆる活動を子ども中心で捉え直し、児童の意欲と自ら考え工夫する力を鍛える。
- ② 協働・協力による教育
 - 3年生から学年・教科担当制による学年運営を行い、複数教員の協働による学習指導、生徒指導、特別活動指導を行う。
 - 1～2年生においてもティームティーティング体制を出来る限り整え、複数教員による指導体制を取る。
 - いじめの未然防止、早期発見、早期対応に全職員で組織的に取り組む。
- ③ ユニバーサルデザインを基本においた教育
 - 全ての児童が安心して過ごせる学校となるよう常にユニバーサルな視点で環境や学習方法の改善を進める。
 - 全ての児童を対象に教育相談を行い、適切な合理的配慮の提供ができるようにする。
- ④ 関わり合いから学ばせる教育
 - 学年での活動、学級単位で行う活動、縦割り学級（つばさ学級）で行う活動を活かし全ての児童に活躍の場を用意し所属感を高める。
 - 他者への思いやりや規範意識に関わりの中で育む。
- ⑤ 学ぶ意欲を引き出し育てる教育
 - 個別最適な学び、協働的な学びの実践化に取り組む。
 - 学習の個性化を図り、児童一人ひとりの学びに向かう姿勢を高める。
 - ICTを学習用具の1つとして捉え、全ての児童の学びの多様性につなげる。
 - 自分の考えを言葉に表す力、伝える力を育成する。

〈その他〉

- ◇ 職員間の「報告・連絡・相談」を重視し、常に連携して動ける組織作りを行う。
- ◇ 時期を逃さず、課題に応じた職員研修を行う。
- ◇ 情報モラルを高めるリテラシー教育を様々な場で行う。
- ◇ 清潔で安全な環境作りに努める。
- ◇ 首から上の怪我は全て管理職に報告する。危機管理の「さしすせそ」
- ◇ 報告をためらわない、遠慮しない。